

もと全国ネットワーク顧問で、現在リトアニア日本国大使の山崎史郎さんより、個人としてのお立場で情報提供とコメントを頂いたものです。

皆様

•皆様方には、新型コロナウイルス問題で、日夜大変な状況に立ち向かわれていることと存じます。

私が今住んでおりますヨーロッパは引き続き深刻な状況にありますが、実は、ヨーロッパにおいて、病院と並び（またはそれ以上に）深刻な事態になっているのが、高齢者介護施設です。介護施設は、リスクの高い高齢者が入所している上に、病院に比べると医療機能が元々弱いため、感染が広がると死亡ケースが非常に多くなります。その中でもベルギーでは、老人ホームの感染が大きな問題になっています。参考までに、関連の情報（地元紙）をお伝えします。

• 高齢者介護施設においては、施設内に感染者が出た場合に外部の病院へ移送できる段階はまだしも、ヨーロッパのように、地域の病院そのものが機能低下・機能喪失している事態（医療崩壊）に至ると、一気に「介護崩壊」の危機に直面するおそれがあります。したがって、「医療崩壊」を防ぐことは当面、非常に重要になるわけですが、あわせて、介護施設などにおいても「介護崩壊」回避への取り組みがともに重要となります。

• すでに介護現場においては、厳しい環境の下でぎりぎりの対応をされていると思いますが、さらに、次の事態への備えを万全にするためには、現場レベルでそれぞれ取り組まれている対応策や工夫、関連情報を共有し合うことが有効と思います。また、感染者が発生した施設など先事例に関する情報収集も重要だと思います。現在、日本では、そうした現場の事例情報を共有する「プラットフォーム」づくりが進んでおり、CLCの池田昌弘さんなどが取り組みを進められていると聞いています。そうした取り組みが早急に立ち上がり、大きな輪になっていくことを心から期待しています。

山崎 史郎

（元・生活困窮者自立支援全国ネットワーク顧問、駐リトアニア日本国大使）

.....
ベルギー、高齢者施設の新型コロナウイルス感染の深刻化

（1） 4月17日付地元紙記事

• 感染症の専門家は、「我々は、2つの流行を経験している。一つ目はコミュニティでの感染であり、これは外出制限によってコントロール下にある。2つ目は老人ホームにおける感染である」さらに、「安定化しつつある病院の死者数に比べて、老人ホームの死者数は増加しており、2つは異なる方向に動いている」と述べた。

(2) 4月18日付地元紙記事

- 感染症の専門家は、以下のように述べた。「間違いは、老人ホーム入所者のウイルス検査を行わなかったことだ。病院ではトリアージで検査が行われ、感染者ゾーンとそれ以外に分けたが、これが極めて重要だった。当時、老人ホームは自分たちだけでコロナに対処させられ、十分な防護材を配備されなかった。その結果が今につながっている。当初、メディアによりイタリアの病院の飽和状態に皆が気をとられ、病院における状態に目が向いていたため、残念ながら老人ホームが第二ラインのように扱われていた。」
「今老人ホームにおいて重要なのは、まだ感染率の低い施設では、感染者とそれ以外を分け、感染したが無症状のスタッフを感染者ゾーンのみに従事させることにより、さらなる感染拡大を防ぐことである。」「老人ホームの入所者が”孤独”だからと考え、外部からの訪問制限を緩和しようとする措置は、あやまりだ（この制限緩和は強い抗議を受け、撤回された）。」

(3) 4月19日付地元紙記事

- ベルギーの老人ホームにおいて実施した22000件のウイルス検査のうち、15%が陽性であったことが判明。ある老人ホームでは98%が陽性であった。